

【まち寄附】団体登録を検討している方向けの説明会

2022年8月3日(水)14時-15時

2022年8月7日(日)14時-15時

特定非営利活動法人 ちば環境情報センター
代表 小西由希子

① 活動紹介

- 環境問題を解決するため、気づいた人が、できることから行動していこうと、1996年より活動を続けています。
- 公民館などでの環境学習講座やプラスチックごみ・太陽光パネル設置に関する条例提案など、多様な環境問題に取り組んでいます。
- 生物多様性豊かな谷津田の保全（生きものをはぐくむ米づくりや森や水辺の手入れ、川遊び、自然観察会、ごみひろいなど）



② まち寄附を始めたきっかけ

I 会費だけでは活動費が賅えない

II 活動は助成金頼みだが、それだけでは賅えない場合がある

①助成金を申請してもすべて認められるとは限らない

②予期せぬ(予算建てしていない)支出がある

- ・仮払い機や脱穀機など機械類の故障による修繕、新規購入
- ・新たな課題が出てきた場合(外来種による被害、開発問題など)

③助成金では認められない支出がある

- ・専門性の高いスタッフによる講習や資料作成などへの謝礼
- ・受託事業で赤字が出た場合(スタッフ交通費など)

④会費だけで経常経費を賅えない場合がある

- ・スタッフの救命講習会などの研修費用

III 寄付をくださる方へのメリット

寄付をくださった方への税制上の優遇措置

③ 寄附金の活用について(どれくらいの寄附があり、どのように活用しているか)

2021年度まちづくり応援寄附金・・・787,748円

活用

- ・野生動物による被害・・・イノシシ、ニホンジカ
→罠設置による捕獲、草刈り、赤外線カメラによる監視、侵入防止の柵設置、猟友会の方のお話しなど
- ・生物多様性における外来種問題・・・アライグマ、ウシガエル、アメリカザリガニ
→罠設置による捕獲、自然体験会でのザリガニ釣り、市長ティーミーティングでの提案など
- ・活動エリアに新たな開発計画
→専門家に依頼して詳細な生物調査の実施、アセス学習会、開発側との情報交換など

④ まち寄附を始めてよかったこと(寄附が増えた、新たな寄附者が増えた、活動の周知につながった、事業の拡大につながった、など良かったことがあれば説明をお願いします。)

- 活動の再確認
- 先の見通せない新たな開発問題への対応に積極的に取り組むことができる

⑤ 寄附を増やすために取り組んでいること
(周知方法など)

- 活動の充実
- 活動を広く伝える
- (会費振込用紙で寄付の呼びかけ)
- 寄付をしてくださる方にはまち寄附のメリットを伝える